

| | |
|------|---|
| 資料番号 | 3 |
|------|---|

| |
|---------------|
| 令和4年1月19日 |
| 課名 農林水産局森林保全課 |
| 担当者 課長 山崎 |
| 内線 3693 |

広島県におけるナラ枯れ被害について

1 要旨・目的

ナラ枯れについては毎年被害を調査しており、この度、令和3年度の被害調査を行ったので、その結果と被害対策について報告する。

2 現状・背景

ナラ枯れとは、ナラ類等（特に広島県ではコナラ、ミズナラ）の樹幹にカシノナガキクイムシが入り込むことでナラ菌が樹幹内で伝播し、根から水を吸い上げる機能が弱まることで枯死する現象で、主に7～9月頃に被害が確認される。

本県におけるナラ枯れ被害は平成18年度に初めて確認されており、防除対策を実施した結果、平成22年度をピークに減少傾向が続いていた。令和2年度は夏期に少雨・高温が続いたこと等から対前年度の約2.5倍に増加した。

3 概要

(1) 調査対象

県内の広葉樹林

(2) 調査期間

令和3年8月1日から令和3年12月24日まで（集計期間を含む）

(3) 調査方法

前年度被害が確認された区域及び市町等から当年度被害の情報提供のあった区域について、県の防災ヘリコプターを活用して上空から被害箇所をカメラで撮影するとともに、地上から、国道や県道沿いの定点観測地点における被害箇所をカメラで撮影し、撮影した全ての画像からナラ枯れの被害木の本数を計測する。

(4) 調査結果

令和3年度のナラ枯れ被害は、夏季に例年並みの降雨があったことから、令和元年度以前の水準まで減少したが、新たな地域で被害が確認された。

表1 広島県におけるナラ枯れ被害本数の推移（H22 及びH29～R3）

（単位：本）

| 区分 | ピーク時 | 直近5ヶ年 | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | H22 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 |
| 広島市 | 196 | 431 | 976 | 964 | 1,058 | 235 |
| 三次市 | 3 | 212 | 0 | 0 | 120 | 25 |
| 庄原市 | 33 | 72 | 4 | 29 | 436 | 359 |
| 廿日市市 | 61 | 110 | 26 | 124 | 429 | 645 |
| 安芸高田市 | 0 | 29 | 59 | 98 | 871 | 125 |
| 安芸太田町 | 4,246 | 736 | 223 | 88 | 251 | 179 |
| 北広島町 | 1,749 | 588 | 373 | 163 | 467 | 180 |
| 世羅町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 神石高原町 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 合計 | 6,288 | 2,178 | 1,661 | 1,466 | 3,632 | 1,762 |

(5) 被害対策

カシノナガキクイムシを駆除することが最も効果的であることから、被害木への薬剤くん蒸処理が一般的に行われており、本県では平成22年度から実施している。

なお、被害対策にはひろしまの森づくり県民税を活用している。

表2 広島県における直近3か年の実施状況（R1～R3）（単位：本，千円）

| 年度 | 実施市町 | 事業量 | 事業費 |
|----|------------|-----|-------|
| R1 | 広島市，安芸太田町 | 268 | 1,402 |
| R2 | 広島市，安芸太田町 | 225 | 1,241 |
| R3 | 廿日市市，安芸太田町 | 200 | 1,296 |

(6) 今後の対応

ホームページ等で情報発信し、被害木の早期発見に繋げるとともに、関係市町等と連携して被害の最先端区域を集中的に防除することにより、被害の拡大を防止する。

また、国の試験研究機関や中国4県等と連携を図り、他の効果的な駆除方法の情報収集を行い、導入に向けて検討する。